

女性研究者研究活動支援事業（一般型）

(実施期間：平成 26～28 年度)

実施機関：名古屋工業大学（総括責任者：鶴飼 裕之）

プロジェクトの概要

(1) 支援体制と活動

「男女共同参画推進センター」を新設し、教員 8 名とコーディネーター 2 名、相談員 1 名を配置し、女性研究者の研究力向上に向けて包括的支援を行い、昇任への条件を整える。同時に、広報活動の充実と啓発セミナーの定期実施を通じて構成員の意識向上を図り、女性研究者が研究に専念できる学内環境を整える。WLB（ワーク・ライフ・バランス）相談室を新設して問題の発見と改善に努める。新規採用では、ポジティブ・アクションを発動し、女性研究者数を着実に増加させる。

(2) 支援員の配置

「OG 人財バンク」を新たに構築し、女性研究者の多様なニーズに対し、最適な支援員を、迅速に配置できる態勢を整える。これにより、既存の研究支援員制度の大幅な改善を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者の数が特に少ない工学系の単科大学において、学長のリーダーシップの下、女性研究者の活躍促進のための基盤づくりに機関全体として取り組むとともに、女性優先公募や女性限定公募を積極的に実施し 6 名の優れた女性教員を採用し、また、6 名の女性教員を上位職（教授、准教授）へ昇任させたことは評価できる。さらに、女性卒業生の人脈を活用した「OG 人財バンク」を創設し、企業で活躍する女性卒業生を特任准教授として招へいし産学連携を進めるとともに、女性卒業生のキャリアアップを支援し、また、キャリアを中断した女性卒業生についてはキャリア復帰支援を図ったことは特色ある取組として評価できる。今後は機関執行部への女性研究者の積極的な登用を期待する。

- **目標達成度**：女性限定公募の実施、企業からの女性プロジェクト特任教員の招へい、女性研究者在職比率や女性常勤教員採用数等の目標は達成した。しかしながら、常勤教員やテニユアトラック教員の女性採用比率については目標を下回った。今後は、学長のリーダーシップの下、若手教員の採用を増加させる人事システム改革における、積極的な女性の採用を期待する。
- **取組**：病児・病後児保育制度の制定、女性優先公募と女性限定公募を活用した積極的な女性研究者の採用に加え、「OG 人財バンク」や「ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」の創設、企業からの女性プロジェクト特任教員の招聘等、地元企業と連携した特色ある取

組を実施したことは評価できる。

- **取組の成果**：女性研究者を取り巻く研究環境整備や機関内の意識改革が格段に進み、女性常勤教員の採用や上位職への昇任が推進されたことは評価できる。また、地元企業とも連携し女性研究者・技術者の意識啓発や活躍促進を図っており、機関内のみならず地域における女性研究者・技術者の活躍促進を主導したこと、こうした取組の成果が評価され、地元自治体から表彰を受けたことは評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、学長が指名した学長特別補佐がセンター長となる学長直属の「男女共同参画推進センター」を創設し、センター長の下、協力教員、人事課が連携し、女性研究者の活躍を実現するため組織全体として事業に取り組んだことは評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後は、「男女共同参画推進センター」の統括コーディネーターをセンター専任教員（特任准教授）として配置し実施体制の強化を図り、十分な予算を確保しこれまでの取組を継続しており評価できる。さらに、「持続可能な工学女性研究リーダー育成システム」の構築を目指しており、取組の今後の発展が期待できる。